

あけましておめでとうございます！あっという間に2007年が始まりましたね！今年も「ひみつの本棚」ではたくさんの楽しい本を紹介していく予定です。よろしくお祈りします。新年第1回目は今年の干支猪にちなんだ本を1冊紹介したいと思います。

『レイザーバック・フォーミー』シートン動物記5

アーネスト・T・シートン 作・絵 小泉 吉晴 訳 福音館書店 945円

科学読み物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年★☆☆ 小高学年★★☆ 中学★★★
高校★★☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

プルンティ家の農場の中にある森ではイノシシの親子が暮らしていましたが、ある日お母さんイノシシがクマに殺されてしまいます。その場に居合わせたプルンティ家の13歳になる娘リゼットは、自分が残されたイノシシの子どもフォーミーを世話をすることにします。1人と1匹は本当の友達になりますが、フォーミーは大人になるとやがてプルンティ家の家畜小屋を出て新しい家族と森で暮らすようになります。そのうち大人になったフォーミーが畑を荒らす事が問題となり、リゼットのお父さんは畑を守るためにリゼットの反対も聞かずフォーミーを殺そうと森へ出かけるのですが、そこで目にしたのは、恐ろしい熊の前で家族を守ろうと立ちはだかるフォーミーの姿でした。そして2匹の死闘が始まったのです。

現在の私たちでは目にすることが難しい野生動物たち。その誇りの高さ、勇敢さ、賢さを書き続けたシートン動物記の中の1冊です。おもしろかった人はぜひシリーズのほかの本も読んでみてください。

<子どもに手渡すときのポイント>

シートン動物記は1900年代初頭に書かれた動物物語ですが、2007年の今も変わらず読む人を惹きつけます。環境が変わってしまった現代とはかけ離れた物語と思われるかもしれませんが、だからこそ本当の自然を私たちに教えてくれる貴重な本だともいえるでしょう。この本を気に入った子どもがいたらぜひ伝記『シートン』(小泉吉晴著 福音館書店)を勧めてあげてください。シートンがなぜ動物記を書いたのか？そこにこめられた思いや、ナチュラリストとしてのシートンの生き方が丁寧に書かれています。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか